別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 533 | 事務事業名 | グリーンツーリズム推進事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4604 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務 □法定受託事務 | | 根拠法令等 | 北広島市農業振興奨励事業補助金交付要綱・同要領 | | | |
| 事務事業開始年度 | 平成23年度 | | 個別計画等 | - | | | |
| 〃 終了予定年度 | | | | | | | |
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | （第 4 章） | 活気ある産業のまち |
| | （第 1 節） | 農業の振興 |
| | （施策 3 ） | 都市住民との交流 |
| 2 対 象 | 農業者等 | |
| 3 目的と内容 | 市内では、農産物の直売や体験型農業など、グリーン・ツーリズム等の取組が活発になっており、地域経済に波及効果が期待されることから市内で展開されているグリーン・ツーリズム活動を市が紹介マップを作成し、市内外へ配布・PRする。<br>今後、グリーン・ツーリズム活動の連携が図られることで、さらに多く交流が生まれ「きたひろしまの農業」や「きたひろしまの魅力」を市内外に伝えられるため、実施者の活動を支援する。<br>都市住民の交流人口増を図り、農業の振興と地域の活性化につなげるため、グリーンツーリズム、6次産業化などに取り組む農業者等を支援する。 | |
| 4 実施内容（手 段） | 2019年度まで | ・交流農園マップを作製し、きたひろしま広報に折り込むとともに、市内外の関係店舗などへの備置き、イベントなどでの配布を実施した。（計26,200部）<br>・六次産業化等支援事業（施設整備事業）補助金を交付し、農産物等直売所や農家レストランなどの施設整備事業を支援した。<br>・広島県における北広島市産米のPR販売について、ホクレン、農協、農業者などと連携し実施した。<br>・関係団体と連携し、グリーンツーリズムや農泊への理解促進・意識醸成を目的とした講演会を開催した。<br>・北広島市グリーン・ツーリズム協議会及び北広島市農泊交流協議会の活動への支援・補助金の交付 |
| | 2020年度 | 前年度実施したものについては、継続して取り組むとともに、関係団体とさらに連携を深めグリーンツーリズムや農泊事業を推進する。 |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| ・農園マップの作製<br>・グリーンツーリズム協議会や農泊交流協議会の活動支援<br>・北広島市産米のＰＲ<br>・六次産業化等支援事業（施設整備事業）補助金の交付 | ・農園マップの作成、配布（26,200部）<br>・北広島市産米のＰＲ販売を実施（広島県）<br>・六次産業化等支援事業（施設整備事業）補助金の交付（2件）<br>・グリーンツーリズム協議会や農泊交流協議会の活動への支援 | ・農園マップの作成・配布<br>・北広島市産米のＰＲ（広島県）<br>・六次産業化等支援事業（施設整備事業）補助金の交付（2件）<br>・グリーンツーリズム協議会や農泊交流協議会の活動支援 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統 合」<br>「休止・廃止」<br>「終 了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | ・市の観光分野でもイチゴ狩りなどが取り上げられてきているところであり、年間60万人を超える入込がある農産物直売所や市民農園をはじめとした、市内のグリーン・ツーリズムの推進に関わる施設のPRを積極的に行っていく。また、北広島市と市産のコメのPRのため、広島県にてプロモーション活動を行う。<br>・六次産業化等支援事業補助金の周知により6次産業化等の取組を促す。<br>・グリーンツーリズム協議会及び農泊交流協議会の事業支援など、グリーンツーリズムの取組を支援し、農業所得の向上や交流人口増、地域活性化につなげる。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

（単位：千円）

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 18,906 | | 15,115 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 18,906 | | 15,115 | | | | | |
| | | ① 合　計 | 18,906 | | 15,115 | | | | | |
| | 人件費（左側：一般、右側：再任用） | ② 人　数（年間） | 0.20 | 0.00 | 0.20 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ ＝②×③ | 1,640 | 0 | 1,640 | 0 | | | | |
| | 総事業費①＋④ | | 20,546 | | 16,755 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指　標　名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①きたひろしま農園マップの作成 | 目標値 | 枚 | 28,000 | 28,000 | | |
| | | 実績値 | | 26,200 | | | |
| | ②マップの配布枚数 | 目標値 | 枚 | 28,000 | 28,000 | | |
| | | 実績値 | | 26,200 | | | |
| | ③グリーン・ツーリズム協議会・農泊交流協議会への支援 | 目標値 | 件 | 2 | 2 | | |
| | | 実績値 | | 2 | | | |
| | ④グリーン・ツーリズムに関する施設整備事業の取組件数 | 目標値 | 件 | 1 | 1 | | |
| | | 実績値 | | 2 | | | |
| 成果指標 | ① マップ配布率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | 100 | | | |
| | ② グリーン・ツーリズム（農泊含む）の関係者による連携事業への支援 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 支援団体数/目標支援団体数 | 実績値 | | 100 | | | |
| | ③ 補助事業実施件数達成率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 補助件数実績値/目標値 | 実績値 | | 200 | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと（補助すること）が妥当ですか？<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか？<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか？<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 農業への理解促進や地産地消の意識醸成のために有効であり、北広島市を道内外に知ってもらうためには市の関与が必要である。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか？<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 2 | ・きたひろしま農園マップを作製しPRに努めており、マップへの問合せも増加している。<br>・グリーンツーリズム協議会や農泊交流協議会の活動が活発に行われ、農業体験商品の造成や市民向けのＰＲ活動などを促進することができた。<br>・六次産業化等支援事業（施設整備事業）補助金の交付により、農産物等直売所や農家レストランなどの施設整備など、農業者の新たな挑戦を促進することができた。（令和元年度の交付件数2件） |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 1 | ・きたひろしま農園マップの活用により、さらなる都市住民との交流促進を図る。<br>・農業者や関係団体・機関へ補助制度の周知と活用が図られるよう努めるとともに、関連する情報の提供やセミナーなどの開催により意識醸成を図り、農業所得の向上や都市住民との交流促進、農村地域の付加価値向上等地域活性化につなげる。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | ・PR活動の実施のため受益者負担になじまない。<br>・グリーン・ツーリズムの取組みを目指す農業者等に対し、助成制度の活用を促し、グリーン・ツーリズムの取組促進を目指す。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】（事業担当部局が評価） | ■ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>□ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙2

# 付　　表

## 補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

| 計画事業番号 | 533-1 |
|---|---|

＜継続用＞

### 【交付先団体等の概要】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 補助金･交付金名 | 農業振興奨励事業補助金 | | |
| 交付先の名称及び代表者名 | 北広島市グリーン・ツーリズム協議会　高嶋　浩一 | 設立年 | 平成29年 |
| 構成員(団体)数 | 16　（2020年3月末現在） | | |
| 交付先団体等の活動目的 | 北広島市における地域資源の特性と、美しい農村環境を生かした体験型観光のグリーン・ツーリズム等を推進するため | | |
| 交付先団体等の活動内容 | （1）グリーン・ツーリズムの普及・啓発及び食農教育<br>（2）グリーン・ツーリズムに係る研修<br>（3）グリーン・ツーリズムのための人材育成<br>（4）グリーン・ツーリズム情報の収集と情報発信<br>（5）行政・企業・メディアとの連携及び企画等の提案・実施<br>（6）グリーン・ツーリズム、六次産業化、農商工連携など関連する商品開発や販売<br>（7）その他グリーン・ツーリズムなどの推進に必要な事業に関すること | | |
| 事務局の状況（2019年度） | □補助団体にある　■市役所にある | | |
| 補助金等の充当状況（2019年度） | □運営費のみに充当　■事業費のみに充当　□運営費・事業費の双方に充当 | | |

### 【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

| | 区　　分 | 2018年度（決算） | 2019年度（決算） | 2020年度（予算） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 収　入 | 本市補助･交付金の額（A） | 0 | 43 | 200 | |
| | 会費 | 75 | 75 | 75 | |
| | 雑入 | 0 | 0 | 0 | |
| | 繰越金 | 44 | 81 | 153 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 収　入　合　計　（B） | 119 | 199 | 428 | |
| 支　出 | 事務費（運営費） | 13 | 0 | 10 | |
| | 事業費 | 25 | 46 | 418 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 支　出　合　計　（C） | 38 | 46 | 428 | |
| 繰 越 金 | 収入（B）－ 支出（C） | 81 | 153 | 0 | |
| 全体支出に対する本市 補助･交付金の割合　(A)÷(C) | | 0　% | 93　% | 47　% | |
| 補助･交付金の対象経費　(項目) | | | 事業費 | 事務費（運営費）<br>事業費 | |
| 補助･交付金の対象経費（金額）　(D) | | | 46 | 418 | |
| 対象経費に対する補助 または交付金の割合　(A)÷(D) | | % | 93　% | 48　% | |

| | |
|---|---|
| 補助・交付金の算出根拠 | 北広島市農業振興奨励事業補助金交付要綱・要領 |

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 518 | 事務事業名 | 環境保全型農業直接支援対策事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4604 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務　□法定受託事務 | 根拠法令等 | 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律/施行令/施行規則 |
| 事務事業開始年度 | 平成23年度 | 個別計画等 | 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画 |
| 〃　終了予定年度 | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 補助 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | | （第　4　章）　活気ある産業のまち |
| | | （第　1　節）　農業の振興 |
| | | （施策　4　）　生産・流通の振興 |
| 2 対　象 | | 環境に配慮した営農活動を行う農業者で組織する団体 |
| 3 目的と内容 | | 農業者で組織する団体の構成員が化学肥料等の使用削減などの条件に沿って地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を行う場合、取組面積に応じ予算の範囲内で当該団体に交付する。<br>交付割合：国(50%)　道(25%)　市(25%) |
| 4 実施内容（手　段） | 2019年度まで | 農業者で組織する団体の構成員が一定の条件に沿って環境に配慮した営農活動を行った場合に、構成員の取組面積に応じ国・道・市は団体に対して補助金を交付する。<br>・交付割合(国50%・道25%・市25%)<br>・交付単価<br>①化学肥料・化学合成農薬を北海道の慣行レベルから5割以上低減する取組＋主作物の栽培期間の前後にカバークロップ（緑肥）を作付けする取組み(8,000円／10a)2名<br>②有機農業(主作物について、化学肥料・化学合成農薬を使用しない取組み)(8,000円／10a)4名<br>③地域特認取組(ﾘﾋﾞﾝｸﾞﾏﾙﾁ)(5000円／10a)1名<br>④堆肥の施用(4,400円／10a)1名<br>※構成員全7名のうち、1名はｶﾊﾞｰｸﾛｯﾌﾟと堆肥の施用の2つの取組を実施。 |
| | 2020年度 | 農業者で組織する団体の構成員が一定の条件に沿って環境に配慮した営農活動を行った場合に、構成員の取組面積に応じ国・道・市は団体に対して補助金を交付する。<br>・交付割合(国50%・道25%・市25%)<br>・交付単価<br>①炭素貯留効果の高い堆肥の水質保全に資する施用1名（4,400円/10a）<br>②リビングマルチ（うち、小麦・大麦等）1名（3,200円/10a）<br>③有機農業3名（12,000円/10a）　※そば等雑穀、飼料作物（3,000円/10a）<br>④炭素貯留効果の高い有機農業1名（14,000円/10a） |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 一定の条件に沿って環境に配慮した農業者で組織する団体に対して国・道とともに補助金を交付する。 | 一定の条件に沿って環境に配慮した農業者で組織する団体に対して国・道とともに補助金を交付した。<br>①取組団体数　1団体<br>②取組者数　8名（ｶﾊﾞｰｸﾛｯﾌﾟ2名、有機農業4名、ﾘﾋﾞﾝｸﾞﾏﾙﾁ1名、堆肥の施用1名）<br>③取組面積　1,281a（ｶﾊﾞｰｸﾛｯﾌﾟ219a、有機農業934a、ﾘﾋﾞﾝｸﾞﾏﾙﾁ60a、堆肥68a）<br>④補助金交付額　982,320円(うち市交付額245,580円) | 一定の条件に沿って環境に配慮した農業者で組織する団体に対して国・道とともに補助金を交付する。 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統　合」<br>「休止・廃止」<br>「終　了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 農業の持続的発展と農業の有する多面的機能の健全な発揮を図るため、環境保全型農業直接支援対策事業を推進し、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を支援する。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

(単位：千円)

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 995 | | 1,534 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | 749 | | 1,153 | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 246 | | 381 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 995 | | 1,534 | | | | | |
| | 人 件 費 (左側：一般、右側：再任用) | ② 人 数 (年間) | 0.30 | 0.00 | 0.30 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ ＝②×③ | 2,460 | 0 | 2,460 | 0 | | | | |
| | 総事業費①＋④ | | 3,455 | | 3,994 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①環境保全型農業実施者数 | 目標値 | 人 | 7 | 7 | | |
| | | 実績値 | | 7 | | | |
| | ②環境保全型農業実施面積 | 目標値 | a | 1,300 | 1,300 | | |
| | | 実績値 | | 1,281 | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① 実施割合 (実施者数) | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【実績値/目標値】 | 実績値 | | 100 | | | |
| | ② 実施割合 (実施面積) | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【実績値/目標値】 | 実績値 | | 98.5 | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義 (算式等)】 | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと (補助すること) が妥当ですか？<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか？<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか？<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 環境問題に対する国民の関心が高まる中で、農業分野においても地球温暖化防止や生物多様性保全に積極的に貢献していく必要があり、環境保全に効果の高い営農活動を推進することは、国民生活及び国民経済の安定に寄与する。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか？<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 事業実施面積の増加によって地球温暖化防止や生物多様性保全の成果は着実に達成されている。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 3 | 事業要件が厳しいため、新たに事業に取り組む農業者が少なく、取組面積の拡大も難しい現状である。取組者数は平成30年度に1名増加したが、令和元年度に1名減少したところであるが、令和2年度はさらに1名減少した。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 国の補助金制度によって実施している事業であり、コスト削除の余地はない。 |

| | |
|---|---|
| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | ■ 法律の義務付けあり　□ 法律の義務付けなし |

| | |
|---|---|
| 【民間活力の活用性評価】<br>(事業担当部局が評価) | □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 513 | 事務事業名 | 菜園パーク促進事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4602 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務 □法定受託事務 | 根拠法令等 | 市民農園整備促進法第4条第1項・第13条～第15条、北広島市農業振興奨励事業補助金交付要綱 |
| 事務事業開始年度 | 平成20年度 | 個別計画等 | - |
| 〃 終了予定年度 | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | （第 4 章） | 活気ある産業のまち |
| | （第 1 節） | 農業の振興 |
| | （施策 3 ） | 都市住民との交流 |
| 2 対 象 | | 遊休農地等の所有者 |
| 3 目的と内容 | | 市民の余暇活動等の憩いの場としての認定市民農園を市内の農地に開設する場合に、開設のための相談や支援を行い、遊休農地の有効活用や、農業者の経営の多角化・安定化につなげる。 |
| 4 実施内容（手 段） | 2019年度まで | 開設の相談や情報提供、開設費用の一部助成。<br>H29年度：補助金交付件数/0件<br>H30年度：補助金交付件数/0件<br>H31年度：補助金交付件数/0件<br><br>H31年度における認定市民農園数は6件（前年度7件） |
| | 2020年度 | 開設の相談や情報提供、開設費用の一部助成。<br>補助交付割合・対象経費の3分の1、補助上限：100千円 |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 認定市民農園開設の支援 | 認定市民農園開設の支援<br>開設相談 0件 | 認定市民農園開設の支援 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統 合」<br>「休止・廃止」<br>「終 了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 安全・安心な農産物への意識や、余暇の過ごし方のひとつとして、家庭菜園に興味を持っている市民も多い。農地の保全という観点からは離農などにより作付けのされていない農地の活用として、また農業者の経営の多角化の一つとして市民農園の開設は有効であることから、開設支援を継続して行っていく。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 0 | | 100 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 0 | | 100 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 0 | | 100 | | | | | |
| | 人 件 費 (左側:一般、右側:再任用) | ② 人 数(年間) | 0.10 | 0.00 | 0.10 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ =②×③ | 820 | 0 | 820 | 0 | | | | |
| | 総事業費①+④ | | 820 | | 920 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①遊休農地の活用面積 | 目標値 | ha | 1 | 1 | | |
| | | 実績値 | | 0 | | | |
| | ②開設農園数 (1農園1haの農園を目標) | 目標値 | 園 | 10 | 11 | | |
| | | 実績値 | | 6 | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① 新規開設農園 | 目標値 | 園 | 1 | 1 | | |
| | 【指標の定義(算式等)】 | 実績値 | | 0 | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義(算式等)】 | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義(算式等)】 | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか?<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか?<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか?<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 遊休農地の活用は国の施策にもあり、農園を求めている市民も多いことから農業者の経営の多角化の一つとして市民農園の開設を促すために事業は有効である。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか?<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 後継者や他の農業者への賃借ができない農地の所有者からの相談もあり、成果はあがっている。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 3 | 農業者の所有する遊休農地の利用方法は他の農業者への集積を基本としているが、市民農園としての活用は農業者の経営多角化の手段のひとつであるため、農地の有効活用に資する範囲での目標設定としている。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 一定の要件を満たした農園の開設には初期投資が必要であり、事業の実施により円滑な開設が見込まれる。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり ■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価) | ■ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>□ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 512 | 事務事業名 | 食農教室事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4604 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務 □法定受託事務 | | 根拠法令等 | 食育基本法 | | | |
| 事務事業開始年度 | 平成17年度 | | 個別計画等 | 第2次北広島市食育推進計画 | | | |
| 〃 終了予定年度 | | | | | | | |
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | | （第 4 章） 活気ある産業のまち |
| | | （第 1 節） 農業の振興 |
| | | （施策 3 ） 都市住民との交流 |
| 2 対 象 | | 市内の小学生とその保護者 |
| 3 目的と内容 | | ファストフードや加工食品等の消費が拡大している中で、スローフードや健全な食習慣を身につけることに関心が高まっていることから、市内の児童とその保護者を対象に親子で食や農を考える機会を作ることを目的として、野菜・果物の収穫体験などを通して農業者等と交流し、自ら収穫した農産物の加工・調理体験を行う食農教室を実施する。 |
| 4 実施内容（手 段） | 2019年度まで | 食農教室の開催（農業についての講義・農作物の収穫体験と調理試食体験）<br>H27 募集人数 20組 40名 ／ 参加人数 9組 19名<br>H28 募集人数 20組 40名 ／ 参加人数 9組 20名<br>H29 募集人数 12組 36名 ／ 参加人数 10組 25名<br>H30 募集人数 （夏）12組 36名 ／ 参加人数 9組 19名<br>（冬）24組 72名 ／ 参加人数 17組 37名<br>R1 募集人数 （夏）10～15組 30名 ／ 参加人数 11組 25名<br>（冬）10組 20名～30名 ／ 参加人数 7組 16名 |
| | 2020年度 | ・収穫調理体験や圃場見学等を通して、食と農について学ぶ教室を開催する。<br>今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、夏の食農教室を中止した。<br>・市HP等で食農、食育に係る情報を発信する。 |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| ・食農教室の開催<br>（年に2回実施）<br><br>・市HP等で食農、食育に関わる情報を発信する。 | ・食農教室の開催<br>参加人数<br>（夏） 11組 25名<br>（冬） 7組 16名<br><br>・市HPで食農、食育に関わる情報を発信 | ・食農教室の開催<br>（年に2回実施）<br><br>・市HPで食農、食育に関わる情報を発信する。 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統 合」<br>「休止・廃止」<br>「終 了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 参加した児童と保護者からは高評価を得ている。引き続き食と農について生産者等との交流を図ることを基本内容としながら、周知方法と内容を検討し、より魅力のある効果的な事業とする。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

（単位：千円）

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 58 | | 60 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | 6 | | 24 | | | | | |
| | | 一般財源 | 52 | | 36 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 58 | | 60 | | | | | |
| | 人 件 費（左側：一般、右側：再任用） | ② 人 数（年間） | 0.15 | 0.00 | 0.15 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ ＝②×③ | 1,230 | 0 | 1,230 | 0 | | | | |
| | 総事業費①＋④ | | 1,288 | | 1,290 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①食農教室参加者 | 目標値 | 組 | 12 | 10 | | |
| | | 実績値 | | 18 | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① 参加率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | 150 | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと（補助すること）が妥当ですか？<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか？<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか？<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 健全な食生活に対する関心は高く、行政がそのきっかけづくりをすることは妥当である。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか？<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 消費者と地元生産者との交流が図られ、アンケートの結果も良好であり地産地消や食育の推進に寄与している。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 2 | 対象者の拡大や開催回数を増やすことにより多くの市民が食や農に対する関心を持つきっかけを作ることができ、事業の目的を達成することにつながる。（令和元年度から開催回数を1回→2回に増やした） |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 参加者に応分の負担を求めている。事前の準備などをより効率的に行い、所要時間の縮減に努める。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】（事業担当部局が評価） | ■ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>□ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 541 | 事務事業名 | 新規就農経営安定支援事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4604 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務　□法定受託事務 | | 根拠法令等 | 北広島市農業後継者等育成基金条例、北広島市新規就農経営安定支援金交付要綱 | | | |
| 事務事業開始年度 | 平成26年度 | | 個別計画等 | - | | | |
| 〃　終了予定年度 | | | | | | | |
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | | （第　4　章）　活気ある産業のまち |
| | | （第　1　節）　農業の振興 |
| | | （施策　1　）　担い手の育成 |
| 2 対　象 | | 市内に居住し、市内において農業従事している認定就農者 |
| 3 目的と内容 | | 新規就農者への支援を充実し、農業後継者としての定着促進を図るため、新規就農者の農地賃借料を助成する事業を実施する。<br>新規就農した年度から起算して3年度を支援期間とし、1年度1人につき250千円を限度に農地の賃借料の1/2の額を補助する。 |
| 4 実施内容（手　段） | 2019年度まで | 市内に居住し市内において農業従事している認定就農者の農地賃借料を支援し、就農初期における農業経営の安定を図り、新規就農者の確保及び定着を促進する。<br>平成27年度　支援実績2件　　支援金273,000円<br>平成28年度　支援実績5件　　支援金448,060円<br>平成29年度　支援実績3件　　支援金301,560円<br>平成30年度　支援実績3件　　支援金277,560円<br>令和元年度　新規就農者における交付該当者がいないため実績なし |
| | 2020年度 | 昨年度と同様であるが、市内に居住し市内において農業従事している認定就農者の農地賃借料を支援し、就農初期における農業経営の安定を図り、新規就農者の確保及び定着を促進する。<br>支援予定　1件 |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 新規就農経営安定支援金の交付 | 新規就農者における交付該当者がいないため実績なし | 新規就農経営安定支援金の交付<br>支援予定　1件 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統　合」<br>「休止・廃止」<br>「終　了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 農業者の減少や高齢化、後継者不足という農業の現状から、新規就農者の就農初期における農業経営の安定を確保するため、国の補助事業だけでなく市としての支援制度を今後も継続し、新規就農者の確保と定着を促進する。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 0 | | 250 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | 250 | | | | | |
| | | 一般財源 | | | | | | | | |
| | | ① 合 計 | 0 | | 250 | | | | | |
| | 人 件 費 (左側:一般、右側:再任用) | ② 人 数(年間) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.05 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ =②×③ | 0 | 0 | 0 | 225 | | | | |
| | 総事業費①+④ | | 0 | | 475 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①申請件数 | 目標値 | 件 | 0 | 2 | | |
| | | 実績値 | | 0 | | | |
| | ②支援金交付件数 | 目標値 | 件 | 0 | 2 | | |
| | | 実績値 | | 0 | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① 目標達成率 | 目標値 | % | | 100 | | |
| | 支援金交付件数/申請目標件数 | 実績値 | | | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか?<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか?<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか?<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 新規就農者への支援を充実し、農業後継者の確保と定着を図るための農業後継者等育成基金の活用は妥当である。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか?<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 支援金が活用されることによって、新規就農者の経営安定につながっており、成果はあがっている。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 3 | 新規就農者の確保と定着の促進を図る事業であり、成果を向上させる代替策はない。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 就農初期段階の経営安定のために必要な支援内容であり、コスト削減の余地はない。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり ■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価) | □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 423 | 事務事業名 | 森林ボランティア支援事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4605 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務 □法定受託事務 | 根拠法令等 | - | | | | |
| 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 個別計画等 | - | | | | |
| 〃 終了予定年度 | | | | | | | |
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | （第 3 章） | 美しい環境につつまれた安全なまち |
| | （第 3 節） | 水と緑の空間の充実 |
| | （施策 1 ） | 緑化の推進 |
| 2 対 象 | 森林ボランティアグループ | |
| 3 目的と内容 | 森林保全活動に対する市民の理解や意識向上のため、森林整備等のボランティア活動をしているグループへの支援を行う。 | |
| 4 実施内容（手 段） | 2019年度まで | 市所有の森林作業用機器（チェンソー、刈払機等）を整備し、森林ボランティアグループへ無償貸与する。 |
| | 2020年度 | 昨年度と同様に、市所有の森林作業用機器（チェンソー、刈払機等）を整備し、森林ボランティアグループへ無償貸与する。 |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 森林作業用機器の整備<br>森林ボランティア等への無償貸与 | 森林作業用機器の整備（17品目62点）<br>森林ボランティア等への無償貸与（17品目62点） | 森林作業用機器の整備<br>森林ボランティア等への無償貸与 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統 合」<br>「休止・廃止」<br>「終 了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 森林整備の一端を担うボランティアへの支援は必要であり、現状継続とする。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

（単位：千円）

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 84 | | 16 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 84 | | 16 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 84 | | 16 | | | | | |
| | 人 件 費（左側：一般、右側：再任用） | ② 人 数（年間） | 0.05 | 0.00 | 0.05 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ ＝②×③ | 410 | 0 | 410 | 0 | | | | |
| | 総事業費①＋④ | | 494 | | 426 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①森林作業用機器の保有数 | 目標値 | 点 | 62 | 62 | | |
| | | 実績値 | | 62 | | | |
| | ②保有機器の貸出数（期間：4月～11月中旬） | 目標値 | 点 | 62 | 62 | | |
| | | 実績値 | | 62 | | | |
| | ③年間ボランティア活動人数（各種事業への参加人数） | 目標値 | 延べ人数 | 949 | 1350 | | |
| | | 実績値 | | 1399 | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① 貸出率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 貸出数/保有数 | 実績値 | | 100 | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| チェック項目 | | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと（補助すること）が妥当ですか？<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか？<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか？<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 森林保全の大切さは、社会一般に浸透しており、多数の市民が森や多様な生物を守るという趣旨に賛同してボランティアに参加している。温暖化や災害対策としても森林整備は重要であり、森林整備の一端を担うボランティアへの支援は必要である。行政として、市民グループの活動を支援する。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか？<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 機器貸出により、森林ボランティアとしての活動の幅が広がり、より活発な森林保全活動としての成果が上がっている。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 3 | 市の森林資源の有効活用のために適切に整備していくことが必要であるが、担い手の確保が課題となっている。意欲あるボランティア団体を継続的に支援し、森林整備を進める必要がある。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 年間予算は、今後およそ6～7万円で森林作業用機器の更新やオーバーホールなどを計画的に行っていく必要があり、必要最小限の予算額である。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】（事業担当部局が評価） | □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 504 | 事務事業名 | 多面的機能支払交付金事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4602 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務　□法定受託事務 | 根拠法令等 | 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律及び施行令 |
| 事務事業開始年度 | 平成26年度 | 個別計画等 | 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画 |
| 〃　終了予定年度 | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 補助 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | | （第　4　章）　活気ある産業のまち |
| | | （第　1　節）　農業の振興 |
| | | （施策　2　）　農地の利用・保全 |
| 2 対　象 | | 地域の農地・農業用施設等の保全や環境の保全・向上活動を実施する活動組織（東部環境保全会）<br>（構成員～農業者、恵庭土地改良区、道央農業協同組合、補修組合、排水組合、町内会） |
| 3 目的と内容 | | 農業者、地域住民で組織し、地域の農村環境・農業用施設の維持保全向上活動を行っている活動組織（東部環境保全会）に対し国・道・市で一体となって支援をすることで、農業施設の長寿命化及び集落機能の低下を防ぎ、農村環境の適切な保全管理と質的向上を図る。 |
| 4 実施内容（手　段） | 2019年度まで | ①国・道・市が農地・農業用水等の資源の整備等に関する次の活動を行う活動組織に対して補助する。（1）農地・水路等の基礎的保全活動（泥上げ等）（2）農村の構造変化に対応した保全構想の作成等（3）水路・農道等の軽微な補修（4）環境向上活動（花壇整備、植栽作業）（5）多面的機能の増進を図る活動<br>②対象地区の交付金～農用地面積によって算出<br>（1）・（2）（田2,300円/10a、畑1,000円/10a）（3）～（5）（田1,200円/10a、畑300円/10a）計（田3,500円/10a、畑1,300円/10a）<br>③対象面積～田　334ha　畑　127ha　④対象地区～1地区（活動組織：東部環境保全会）<br>⑤事業負担割合～活動面積により算出される交付金に対し(国　50%、道　25%、市　25%) |
| | 2020年度 | ①国・道・市が農地・農業用水等の資源の整備等に関する次の活動を行う活動組織に対して補助する。（1）農地・水路等の基礎的保全活動（泥上げ等）（2）農村の構造変化に対応した保全構想の作成等（3）水路・農道等の軽微な補修（4）環境向上活動（花壇整備、植栽作業）（5）多面的機能の増進を図る活動<br>②対象地区の交付金～農用地面積によって算出<br>（1）・（2）（田2,300円/10a、畑1,000円/10a）（3）～（5）（田1,200円/10a、畑300円/10a）計（田3,500円/10a、畑1,300円/10a）<br>③対象面積～田　334ha　畑　127ha　④対象地区～1地区（活動組織：東部環境保全会）<br>⑤事業負担割合～活動面積により算出される交付金に対し(国　50%、道　25%、市　25%) |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 市内の活動組織が行う農地・農業用施設等の保全管理に係る費用に対する補助 | 市内の活動組織が行う農地・農業用施設等の保全管理に係る費用に対する補助<br>（14,284千円、うち一般財源3,557千円） | 市内の活動組織が行う農地・農業用施設等の保全管理に係る費用に対する補助 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統　合」<br>「休止・廃止」<br>「終　了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 地元の活動組織を通じて地域の農地・農業用施設等の保全や環境の保全・向上が図られていることから、現状継続とする。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 14,284 | | 14,284 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | 10,727 | | 10,726 | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 3,557 | | 3,558 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 14,284 | | 14,284 | | | | | |
| | 人 件 費 (左側:一般、右側:再任用) | ② 人 数(年間) | 0.60 | 0.00 | 0.60 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ =②×③ | 4,920 | 0 | 4,920 | 0 | | | | |
| | 総事業費①+④ | | 19,204 | | 19,204 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①対象面積 | 目標値 | ha | 461 | 461 | | |
| | | 実績値 | | 461 | | | |
| | ②活動面積 | 目標値 | ha | 461 | 461 | | |
| | | 実績値 | | 461 | | | |
| | ③開水路+農道+ﾊﾟｲﾌﾟﾗｲﾝ整備 | 目標値 | ha | 111.7 | 111.7 | | |
| | | 実績値 | | 111.7 | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① 達成率 【活動面積実績/対象面積実績】 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | | 実績値 | | 100 | | | |
| | ② 達成率 【整備目標/整備実績】 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | | 実績値 | | 100 | | | |
| | ③ 【指標の定義(算式等)】 | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか?<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか?<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか?<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 本事業は法律に基づく事業として、国・地方の役割が明記されており、事業の目的を達成するため、市の補助は必要不可欠である。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか?<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 活動組織である東部環境保全会の取組により、地域の農地・農業施設などの適切な保全管理が図られている。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 3 | 平成27年度から法律に基づく事業となったことにより、国・道・市の三者の役割が明記されており、代替性はない。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 法律に基づく事業として事業手法が定められ、平成27年度以降は活動地域全域の現地確認事務など市の事務量も増えており、コスト削減の余地はない。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | ■ 法律の義務付けあり　□ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価) | □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙2

# 付　　表

## 補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

| 計画事業番号 | 504 |
|---|---|

＜継続用＞

### 【交付先団体等の概要】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 補助金･交付金名 | 多面的機能支払交付金事業補助金 | | |
| 交付先の名称及び代表者名 | 東部環境保全会　茶木　雄一 | 設立年 | H19年 |
| 構成員(団体)数 | 42名、15団体　（2020年3月末現在） | | |
| 交付先団体等の活動目的 | 農地維持活動又は資源向上活動を通じ北広島市北の里、共栄、東の里、中の沢、富ヶ岡南の里に存する農用地、水路、農道等の地域資源及び農村環境の保全を図る | | |
| 交付先団体等の活動内容 | 北の里、共栄、東の里、中の沢、富ヶ岡南の里に存する農用地、水路、農道等の地域資源及び農村環境の保全活動 | | |
| 事務局の状況（2019年度） | ■補助団体にある　□市役所にある | | |
| 補助金等の充当状況（2019年度） | □運営費のみに充当　■事業費のみに充当　□運営費・事業費の双方に充当 | | |

### 【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

| | 区　　分 | 2018年度（決算） | 2019年度（決算） | 2020年度（予算） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 収　入 | 本市補助･交付金の額（A） | 14,228,796 | 14,228,796 | 14,228,796 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 持越金 | 2,234,541 | 295,307 | 1,691,953 | |
| | 収　入　合　計　（B） | 16,463,337 | 14,524,103 | 15,920,749 | |
| 支　出 | 事業費 | 16,168,030 | 12,832,150 | 15,920,749 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 持越金 | 295,307 | 1,691,953 | | |
| | 支　出　合　計　（C） | 16,463,337 | 14,524,103 | 15,920,749 | |
| 繰 越 金 | 収入（B）－ 支出（C） | 0 | 0 | 0 | |
| 全体支出に対する本市 補助･交付金の割合　(A)÷(C) | | 86　% | 98　% | 89　% | |
| 補助･交付金の対象経費　(項目) | | 保全活動（草刈、景観形成等）に係る日当や資材料等 | 保全活動（草刈、景観形成等）に係る日当や資材料等 | 保全活動（草刈、景観形成等）に係る日当や資材料等 | |
| 補助･交付金の対象経費（金額）　(D) | | 14,228,796 | 14,228,796 | 14,228,796 | |
| 対象経費に対する補助 または交付金の割合　(A)÷(D) | | 100　% | 100　% | 100　% | |
| 補助・交付金の算出根拠 | 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律<br>多面的機能支払交付金実施要綱・要領<br>北広島市多面的機能支払交付金交付要綱、要領 | | | | |

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 546 | 事務事業名 | 鳥獣による農作物等被害防止対策事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4602 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務　□法定受託事務 | | 根拠法令等 | 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 | | | |
| 事務事業開始年度 | 平成27年度 | | 個別計画等 | 鳥獣による農作物等被害防止計画（平成27年度） | | | |
| 〃　終了予定年度 | | | | | | | |
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | | （第　4　章）　活気ある産業のまち |
| | | （第　1　節）　農業の振興 |
| | | （施策　4　）　生産・流通の振興 |
| 2 対　象 | | 鳥獣による農作物被害を受ける農家 |
| 3 目的と内容 | | 鳥獣被害対策実施隊によるエゾシカ等の有害鳥獣駆除を、鳥獣被害防止総合対策事業（国の補助事業：補助率10分の10）の交付決定前（4～5月）に実施するため、実施隊の鳥獣駆除活動に対する報酬を措置する。なお、6月の交付決定以降は、北広島市鳥獣被害防止対策協議会（H26年度設立）を事業実施主体として、同総合対策事業で鳥獣駆除経費が措置される。（国の補助金は市を経由せず協議会に直接交付） |
| 4 実施内容（手　段） | 2019年度まで | （4月～5月）<br>・「鳥獣被害対策実施隊」による有害鳥獣駆除<br>出動：延べ36人回(2019年度)<br>（実施隊員への報酬：144千円（2019年度））<br>（6月～9月）<br>・「北広島市鳥獣被害防止対策協議会」による有害鳥獣駆除<br>出動：延べ671人回<br>（鳥獣被害防止総合対策事業補助金（国庫補助金）が直接協議会に交付される。2,889千円（2019年度）） |
| | 2020年度 | （国の補助事業　交付決定前）　鳥獣被害防止総合対策事業緊急捕獲活動支援事業（国補助）<br>（国の補助事業　交付決定後）　鳥獣被害防止総合対策事業推進事業<br>（国の補助金を超える部分）　市単費の予算にて報酬支払 |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 鳥獣による農作物等被害防止のため、鳥獣被害対策実施隊による鳥獣の駆除を行う。 | 有害鳥獣駆除の実施<br>「鳥獣被害対策実施隊」<br>出動：延べ36人回<br>「北広島市鳥獣被害防止対策協議会」<br>出動：延べ671人回 | 鳥獣による農作物等被害防止のため、鳥獣被害対策実施隊による鳥獣の駆除を行う。 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統　合」<br>「休止・廃止」<br>「終　了」 |
| 1次評価 | 拡大 | エゾシカの被害を一層低減させるためには、4月及び5月の駆除が有効であるため、事業費を増額することによって、現状よりも成果を向上させる可能性がある。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

（単位：千円）

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 144 | | 144 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 144 | | 144 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 144 | | 144 | | | | | |
| | 人 件 費（左側：一般、右側：再任用） | ② 人 数（年間） | 0.03 | 0.00 | 0.03 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ ＝②×③ | 246 | 0 | 246 | 0 | | | | |
| | 総事業費①＋④ | | 390 | | 390 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①捕獲数（エゾシカ） | 目標値 | 頭 | 100 | 110 | | |
| | | 実績値 | | 131 | | | |
| | ②捕獲数（キツネ） | 目標値 | 頭 | 35 | 35 | | |
| | | 実績値 | | 16 | | | |
| | ③捕獲数（カラス等の鳥類） | 目標値 | 頭 | 1500 | 1500 | | |
| | | 実績値 | | 791 | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① エゾシカの捕獲実績 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 実績値/目標値 | 実績値 | | 131 | | | |
| | ② キツネの捕獲実績 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 実績値/目標値 | 実績値 | | 46 | | | |
| | ③ カラス等の捕獲実績 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 実績値/目標値 | 実績値 | | 53 | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと（補助すること）が妥当ですか？<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか？<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか？<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 特別措置法に基づく事業を実施しており、農業生産の振興施策としても重要なものとなっている。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか？<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 2 | ある程度の捕獲数を確保していることから、一定の成果はあがっていると思われるが、繁殖数が捕獲数を上回っているのか、被害額は増加傾向にある。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 2 | 効果的な駆除が期待できる春先（4月～5月）のエゾシカ駆除の出動を増やすといった方策が考えられる。<br>また、2020年度に検討を行うエゾシカの囲い罠を行うことで、捕獲数が増加されると考えられる。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 鳥獣被害対策実施隊及び北広島市鳥獣被害防止対策協議会との協働により、事業全体が効率的に推進されている。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】（事業担当部局が評価） | ■ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>□ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 502 | 事務事業名 | 道央農業振興公社負担金事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4602 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務 □法定受託事務 | 根拠法令等 | - | | | | |
| 事務事業開始年度 | 平成17年度 | 個別計画等 | - | | | | |
| 〃 終了予定年度 | | | | | | | |
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | （第 4 章） | 活気ある産業のまち |
| | （第 1 節） | 農業の振興 |
| | （施策 1 ） | 担い手の育成 |
| 2 対 象 | | 公益財団法人道央農業振興公社 |
| 3 目的と内容 | | 北広島市、千歳市、恵庭市、江別市、JA道央が共同し、広域事業として担い手の育成支援や農用地の利用調整等の公社事業費を負担し農業振興を図る。 |
| 4 実施内容（手 段） | 2019年度まで | 負担金の納入及び理事、評議員、業務推進委員、担い手支援センター構成員として、運営に参画し事業の推進にあたっている。（評議員、理事等として、副市長、農業委員会会長、経済部長（兼農業委員会事務局長）、農政課長（兼農業委員会事務局次長）、農政課主査、農業委員会主査が運営へ参画。） |
| | 2020年度 | 昨年と同様であるが、負担金の納入及び、理事、評議員、業務推進委員、担い手支援センター構成員として、運営に参画し事業の推進にあたっている。（評議員、理事等として、副市長、農業委員会会長、経済部長（兼農業委員会事務局長）、農政課長（兼農業委員会事務局次長）、農政課主査、農業委員会主査が運営へ参画。） |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 構成員として運営に参画<br>負担金の納入 | 構成員として運営に参画<br>負担金の納入（2,489千円） | 構成員として運営に参画<br>負担金の納入 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統 合」<br>「休止・廃止」<br>「終 了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 担い手の育成、農用地の利用調整など広域的な農業振興に必要な事業であり、現状継続とする。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

(単位：千円)

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 2,489 | | 2,489 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 2,489 | | 2,489 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 2,489 | | 2,489 | | | | | |
| | 人 件 費 (左側：一般、右側：再任用) | ② 人 数 (年間) | 0.10 | 0.00 | 0.10 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ ＝②×③ | 820 | 0 | 820 | 0 | | | | |
| | 総事業費①＋④ | | 3,309 | | 3,309 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①認定農業者数 | 目標値 | 人 | 58 | 58 | | |
| | | 実績値 | | 56 | | | |
| | ②認定農業者の農地集積率 (H]29から) ※目標値は国が目標とする集積率を設定 | 目標値 | % | 80 | 80 | | |
| | | 実績値 | | 63 | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① 認定農業者数達成率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【認定農業者数実績値／同目標値】 | 実績値 | | 97 | | | |
| | ② 認定農業者の農地集積の達成率 (H29から) | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【認定農業者農地集積実績値／同目標値】 | 実績値 | | 79 | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義 (算式等)】 | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと (補助すること) が妥当ですか？<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか？<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか？<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 北広島市、千歳市、恵庭市、江別市の4市と道央農業協同組合が共同して取り組む公益性のある事業であり、担い手の育成などによって食料の安定供給にも寄与する。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか？<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 4市の広域的な事業として実施することにより、農地利用集積、担い手や新規就農者の育成支援等が図られ事業目的が達成されている。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 3 | 4市の事業に係る事務の集約を図ることにより、効率性が図られ、かつ費用対効果が高く、代替策はない。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 4市の事業に係る事務の集約を図ることにより、効率性が図られ、かつ費用対効果が高く、代替策はない。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価) | □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 500 | 事務事業名 | 農業後継者等育成事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4604 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務　□法定受託事務 | 根拠法令等 | 北広島市農業後継者等育成基金条例及び農業後継者等育成奨励金交付要綱、北広島市新規就農者支援金交付要綱 | | | | |
| 事務事業開始年度 | 昭和61年度 | 個別計画等 | - | | | | |
| 〃 終了予定年度 | | | | | | | |
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | （第　4　章） | 活気ある産業のまち |
| | （第　1　節） | 農業の振興 |
| | （施策　1　） | 担い手の育成 |
| 2 対　象 | 農業後継者等（農業後継者の地域リーダー、女性農業者、新規就農者、農地所有適格法人の従業員） | |
| 3 目的と内容 | 本市農業の持続的発展のために、次代の担い手である農業後継者等の育成及び確保を図るため、農業後継者等の研修への補助（所要額の2/3、上限あり）や新規就農者の定着促進を図る支援金（就農4年目から2年間、対象経費の1/3、上限30万円）を交付する。 | |
| 4 実施内容（手　段） | 2019年度まで | 農業後継者等の活動等に農業後継者等育成基金から補助金を交付。<br>平成26年度　後継者等育成1件（全国農協青年組織協議会の海外現地研修）<br>平成27年度　後継者等育成3件（JA道央青年部北広島ブロック視察研修他2件）、新規就農者支援金の交付1件<br>平成28年度　後継者等育成1件（全国農協青年組織協議会の国内現地研修）、新規就農者支援金の交付1件<br>平成29年度　後継者等育成1件（石狩地区農協青年部連絡協議会の道外視察研修）、新規就農者支援金の交付2件<br>平成30年度　後継者等育成1件（石狩地区農協青年部連絡協議会の道外視察研修）、新規就農者支援金の交付2件<br>令和元年度　後継者等育成2件（石狩地区農協青年部連絡協議会の道外視察研修他1件）、新規就農者支援金の |
| | 2020年度 | 1　農業後継者等が参加する視察研修、研究事例発表会などの活動に対する支援として、農業後継者等育成基金から助成を行う（3分の2）。<br>2　新規就農から4年目、5年間となる新規就農者に新規就農者支援金（対象経費の3分の1、上限30万円）を交付する事業については該当者なし。 |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 農業後継者等の研修活動等への助成<br>新規就農者支援金の交付 | 農業後継者等の研修活動等への助成<br>2件　178千円<br><br>新規就農者支援金の交付<br>3件　900千円 | 農業後継者等の研修活動等への助成<br>（新規就農者支援金の交付は該当者なし） | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統　合」<br>「休止・廃止」<br>「終　了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 農業者が減少する中、持続性の高い農業の展開を図るため担い手の育成に資する研修活動等や新規就農者の定着促進への支援を引続き推進するため現状維持とする。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

(単位：千円)

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 1,078 | | 1,200 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | 1,078 | | 1,200 | | | | | |
| | | 一般財源 | | | | | | | | |
| | | ① 合 計 | 1,078 | | 1,200 | | | | | |
| | 人 件 費 (左側：一般、右側：再任用) | ② 人 数 (年間) | 0.00 | 0.10 | 0.00 | 0.10 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ ＝②×③ | 0 | 450 | 0 | 450 | | | | |
| | 総事業費①＋④ | | 1,528 | | 1,650 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①研修活動補助・新規就農支援金交付件数 | 目標値 | 件 | 5 | 5 | | |
| | | 実績値 | | 5 | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① 研修活動補助・新規就農支援金交付割合 実績値/目標値 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | | 実績値 | | 100 | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと（補助すること）が妥当ですか？<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか？<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか？<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 名誉市民故松原太郎翁の遺志による寄附及びふるさと納税による寄附に基づく基金であり、市農業の発展のための優秀な担い手育成を図るための補助金であることから妥当と考える。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか？<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 次代を担う農業後継者、地域農業発展の推進役を果たす地域リーダー及び女性農業従事者に有用な研修の機会を提供しており、また、新規就農者の経営安定、定着促進に寄与している。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 2 | 農業者の高齢化と後継者の減少の中で、後継者や担い手の育成、新規就農促進に有用な事業であり、事業の周知推進による交付実績拡大の可能性はある。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 農業後継者の育成・確保は本市農業の重要な課題であり、現状の支援内容を維持することとし、コスト削減の余地はない。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価) | □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 514 | 事務事業名 | 農業資金利子補給事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4602 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務 □法定受託事務 | 根拠法令等 | 農業経営基盤強化資金実施要綱、北海道農業経営基盤強化資金取扱要領、北広島市農業経営基盤強化資金利子助成交付要領 |
| 事務事業開始年度 | 平成7年度 | | |
| 〃 終了予定年度 | | 個別計画等 | - |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 補助 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | （第 4 章） | 活気ある産業のまち |
| | （第 1 節） | 農業の振興 |
| | （施策 4 ） | 生産・流通の振興 |
| 2 対 象 | | 農業経営基盤強化促進法に基づく農業改善計画の認定を受けた認定農業者 |
| 3 目的と内容 | | 効率的かつ安定的な経営を実践できる経営感覚に優れた農業経営者を育成するため、農業経営基盤強化促進法に基づく農業改善計画の認定を受けた農業者（認定農業者）がその計画に則して規模拡大などの経営展開を図るために農業経営基盤強化資金（スーパーL資金）を借り入れした場合に利子の一部を国・道とともに助成する。 |
| 4 実施内容（手 段） | 2019年度まで | 認定農業者がその計画に則して規模拡大などの経営展開を図るために農業経営基盤強化資金を借入れした場合に利子の一部を助成する。<br>借入農家1戸（法人1戸）<br>借入件数1件 |
| | 2020年度 | 認定農業者がその計画に則して規模拡大などの経営展開を図るために農業経営基盤強化資金を借入れした場合に利子の一部を助成する。<br>借入農家1戸（法人1戸）<br>借入件数1件 |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 資金借入利子に対する助成<br>借入農家1戸（法人1戸）<br>借入件数1件 | 資金借入利子に対する助成<br>借入農家1戸（法人1戸）<br>借入件数1件 | 資金借入利子に対する助成<br>借入農家1戸（法人1戸）<br>借入件数1件 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統 合」<br>「休止・廃止」<br>「終 了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 農業経営基盤強化資金利子の一部を補給するものであり、現状継続とする。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 112 | | 76 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | 56 | | 37 | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 56 | | 39 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 112 | | 76 | | | | | |
| | 人件費 (左側:一般、右側:再任用) | ② 人 数(年間) | 0.05 | 0.00 | 0.05 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ =②×③ | 410 | 0 | 410 | 0 | | | | |
| | 総事業費①+④ | | 522 | | 486 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指標名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①年度末未償還元金 | 目標値 | 円 | 15,121 | 7,654 | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ②利子助成件数 | 目標値 | 件 | 1 | 2 | | |
| | | 実績値 | | 1 | | | |
| | ③申請件数 | 目標値 | 件 | 1 | 2 | | |
| | | 実績値 | | 1 | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義(算式等)】 | 実績値 | | | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義(算式等)】 | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義(算式等)】 | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか?<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか?<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか?<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 農業経営の改善を計画的に進めようとする認定農業者に対して、国・道・市の三者で農業経営基盤強化資金利子の一部を補給することによって、効率的かつ安定的な農業経営を育成し、これらの農業経営が農業生産の相当部分を担うような農業構造を確立するために必要な事業である。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか?<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 農業経営の改善が計画的に進められ、効率的かつ安定的な農業経営の促進に寄与している。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 3 | 国・道・市が三者一体で農業者の経営改善を支援する事業であるが、経営改善の成果向上は個別経営者の経営努力によるものであり、代替策はない。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 国・道・市が三者一体で農業者の経営改善を支援する制度であり、コスト削減の余地はない。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価) | □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 515 | 事務事業名 | 農業振興奨励事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4604 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務 □法定受託事務 | | 根拠法令等 | 北広島市補助金等交付規則、北広島市農業奨励振興事業補助金交付要綱 | | | |
| 事務事業開始年度 | 昭和44年度 | | 個別計画等 | - | | | |
| 〃 終了予定年度 | | | | | | | |
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | | （第 4 章） 活気ある産業のまち |
| | | （第 1 節） 農業の振興 |
| | | （施策 4 ） 生産・流通の振興 |
| 2 対 象 | | 道央農業協同組合恵庭・北広島営農センター（農業経営者及び関係機関で組織する各生産組織、酪農家等）<br>北広島市家畜自衛防疫組合 |
| 3 目的と内容 | | 農業経営者等で構成する生産組織、酪農家等に対し、以下の支援を主に道央農業協同組合を通して行い、農業経営の近代化、安定化を目指し、北広島市の農業の振興を図る。<br>○生産組織支援事業～各生産組織が実施する技術導入指導、研修会、先進地視察など農業技術の向上等にかかる経費への一部補助<br>○預託放牧事業～健全牛育成のために南富良野町公共牧場に預託放牧する際の経費の一部補助。<br>○酪農ヘルパー事業～労働時間短縮と休日確保のための酪農ヘルパー利用に係る経費の一部補助。<br>○線虫被害防止対策～緑肥用えん麦等の作付に係る経費の一部補助。<br>○えぞ鹿被害対策～被害農家に対して電牧柵など防除機器購入等に係る経費の一部補助。 |
| 4 実施内容（手 段） | 2019年度まで | ■道央農業協同組合を通し、次の事業経費の一部を補助。<br>○生産組織支援事業～各生産組織が実施する研修会、先進地視察など農業技術の向上に係る経費への一部補助。<br>○預託放牧事業～健全牛育成のために南富良野町公共牧場等に預託放牧する際の経費の一部補助。<br>○酪農ヘルパー事業～労働時間短縮と休日確保のための酪農ヘルパー利用に要する経費の一部補助。<br>○線虫被害防止対策事業～緑肥用えん麦等の作付けに要する経費の一部補助。<br>○えぞ鹿被害対策～被害農家に対して電牧柵など防除機器購入・くくり罠免許取得・わな購入に要する経費の一部補助。<br>■北広島市家畜自衛防疫組合の家畜防疫事業経費の一部を補助。 |
| | 2020年度 | 昨年度と同内容で実施 |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 農業技術の向上や情報交換等への支援<br>健全牛育成のための預託放牧、酪農ヘルパーの導入への支援<br>野菜の線虫被害の防止、エゾシカによる被害の軽減への支援 | 農業技術の向上や情報交換等への支援<br>健全牛育成のための預託放牧、酪農ヘルパーの導入への支援<br>野菜の線虫被害の防止、エゾシカによる被害の軽減への支援<br>実績額 2,105千円 | 農業技術の向上や情報交換等への支援<br>健全牛育成のための預託放牧、酪農ヘルパーの導入への支援<br>野菜の線虫被害の防止、エゾシカによる被害の軽減への支援 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統 合」<br>「休止・廃止」<br>「終 了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 各生産組織の事業活動や畜産振興、野菜生産振興、エゾシカ被害対策等への支援によって、市内農業の振興が図られていることから現状継続とする | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 2,105 | | 2,550 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 2,105 | | 2,550 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 2,105 | | 2,550 | | | | | |
| | 人 件 費 (左側:一般、右側:再任用) | ② 人 数(年間) | 0.00 | 0.05 | 0.00 | 0.05 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ =②×③ | 0 | 225 | 0 | 225 | | | | |
| | 総事業費①+④ | | 2,330 | | 2,775 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①別表のとおり | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義(算式等)】 | 実績値 | | | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義(算式等)】 | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義(算式等)】 | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか?<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか?<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか?<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 農業者の高齢化・後継者不足、耕作放棄地の拡大、価格の安い輸入農産物との競合など農業を取り巻く環境は厳しく、安全・安心な国産農産物の生産を維持し食料の安定供給を確保するため、また、地域経済の振興を図るためにも必要な事業である。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか?<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 農業生産組織の事業活動や農業生産の振興事業、エゾシカ被害対策等の実施によって、安定した農業生産の維持に着実な成果が出ている。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 3 | 現状よりも成果を向上させるのは個々の農業者の経営努力によるものであり、市の事業としての代替策はない。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 市内農業の生産振興を図るための事業として必要な支援内容であり、削減の余地はない。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり ■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価) | □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

# 評　価　指　標　別　表

| 計画事業番号 | 515 | 事務事業名 | 農業振興奨励事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4604 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

**【評価指標】**

| | 指　標　名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①預託放牧利用戸数 | 目標値 | 戸 | 4 | 4 | | |
| | | 実績値 | | 2 | | | |
| | ②線虫対策緑肥えん麦作付面積 | 目標値 | ha | 42 | 48 | | |
| | | 実績値 | | 48 | | | |
| | ③エゾシカ電牧柵設置面積 | 目標値 | ha | 15 | 14 | | |
| | | 実績値 | | 7 | | | |
| | ④酪農ヘルパー利用戸数 | 目標値 | 戸 | 6 | 6 | | |
| | | 実績値 | | 6 | | | |
| | ⑤ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑥ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑦ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑧ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑨ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑩ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑪ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑫ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑬ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑭ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ⑮ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成果指標 | ① 預託放牧利用率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【実績値/目標値】 | 実績値 | | 50 | | | |
| | ② えん麦作付率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【実績値/目標値】 | 実績値 | | 114 | | | |
| | ③ エゾシカ電牧柵設置率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【実績値/目標値】 | 実績値 | | 47 | | | |
| | ④ 酪農ヘルパー利用率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 【実績値/目標値】 | 実績値 | | 100 | | | |
| | ⑤ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |
| | ⑥ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |
| | ⑦ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |
| | ⑧ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |
| | ⑨ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |
| | ⑩ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |

別紙2

# 付　　表

## 補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

| 計画事業番号 | 515-1 |
|---|---|

＜継続用＞

### 【交付先団体等の概要】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 補助金･交付金名 | 農業振興奨励事業補助金 | | |
| 交付先の名称及び代表者名 | 道央農業協同組合<br>恵庭・北広島営農センター　営農センター長　釜田　英司 | 設立年 | 平成13年 |
| 構成員(団体)数 | 各生産組織構成員数　143名（農業生産者数）　（2020年7月末現在） | | |
| 交付先団体等の活動目的 | 農業経営安定化のための情報の共有や各種活動による農業振興等 | | |
| 交付先団体等の活動内容 | 農業技術の向上及び農業振興事業の共同活動 | | |
| 事務局の状況（2019年度） | ■補助団体にある　□市役所にある | | |
| 補助金等の充当状況（2019年度） | □運営費のみに充当　■事業費のみに充当　□運営費・事業費の双方に充当 | | |

### 【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

| | 区　　分 | 2018年度（決算） | 2019年度（決算） | 2020年度（予算） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 収　入 | 本市補助･交付金の額（A） | 1,985 | 1,976 | 2,378 | |
| | 自己負担金 | 10,063 | 10,665 | 10,552 | |
| | ＪＡ補助金 | 3,750 | 3,711 | 4,228 | |
| | その他 | 712 | 1,759 | 784 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 収　入　合　計　（B） | 16,510 | 18,111 | 17,942 | |
| 支　出 | 事業費 | 12,947 | 14,045 | 14,173 | |
| | 調査研究費 | 247 | 141 | 300 | |
| | 会議費・事務費等 | 2,854 | 3,396 | 3,469 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 支　出　合　計　（C） | 16,048 | 17,582 | 17,942 | |
| 繰 越 金 | 収入（B）－ 支出（C） | 462 | 529 | 0 | |
| 全体支出に対する本市 補助･交付金の割合　(A) ÷ (C) | | 12　% | 11　% | 13　% | |
| 補助･交付金の対象経費　(項目) | | 事業費・調査研究費 | 事業費・調査研究費 | 事業費・調査研究費 | |
| 補助･交付金の対象経費（金額）　(D) | | 13,962 | 14,186 | 14,473 | |
| 対象経費に対する補助 または交付金の割合　(A) ÷ (D) | | 14　% | 14　% | 16　% | |

| | |
|---|---|
| 補助・交付金の算出根拠 | 北広島市農業振興奨励事業補助金交付要綱・要領 |

別紙2

# 付　　表

## 補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

| 計画事業番号 | 515-2 |
|---|---|

＜継続用＞

### 【交付先団体等の概要】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 補助金･交付金名 | 農業振興奨励事業補助金 | | |
| 交付先の名称及び代表者名 | 北広島市家畜自営防疫組合　組合長　山本　広一 | 設立年 | 昭和60年 |
| 構成員(団体)数 | 家畜飼養者（酪農、養豚）14人及び市・農協・農業共済組合等関係団体　（2020年3月末現在） | | |
| 交付先団体等の活動目的 | 家畜伝染病の発生予防と家畜衛生思想の普及啓蒙を推進し、もって畜産農家の経営安定を図ることを目的とする。 | | |
| 交付先団体等の活動内容 | 1.家畜の伝染性疾患の予防に関すること<br>2.家畜の衛生情報の収集及び連絡に関すること<br>3.家畜の飼養環境の保全及び消毒に関すること<br>4.家畜伝染病の発生時における防疫に関すること<br>5.研修会、講習会の開催に関すること<br>6.その他目的達成に関すること | | |
| 事務局の状況（2019年度） | □補助団体にある　■市役所にある | | |
| 補助金等の充当状況（2019年度） | □運営費のみに充当　■事業費のみに充当　□運営費・事業費の双方に充当 | | |

### 【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

| | 区　分 | 2018年度（決算） | 2019年度（決算） | 2020年度（予算） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 収　入 | 本市補助･交付金の額（A） | 129 | 129 | 129 | |
| | ＪＡ補助金 | 50 | 50 | 50 | |
| | 家畜予防接種注射代 | 340 | 501 | 507 | |
| | 繰越金 | 47 | 25 | 36 | |
| | 組合防疫事務費 | 12 | 20 | 20 | |
| | 雑入 | | | | |
| | 収　入　合　計　（B） | 578 | 725 | 742 | |
| 支　出 | 事業費 | 166 | 146 | 149 | 衛生対策費 |
| | 活動費 | 18 | 0 | 51 | |
| | ワクチン代 | 286 | 431 | 413 | |
| | 技術料 | 64 | 93 | 94 | |
| | 負担金 | 15 | 15 | 15 | |
| | その他 | 4 | 4 | 20 | |
| | | | | | |
| | 支　出　合　計　（C） | 553 | 689 | 742 | |
| 繰 越 金 | 収入（B）－ 支出（C） | 25 | 36 | 0 | |
| 全体支出に対する本市 補助･交付金の割合　(A)÷(C) | | 23　% | 19　% | 17　% | |
| 補助･交付金の対象経費　(項目) | | 事業費のみ | 事業費のみ | 事業費のみ | |
| 補助･交付金の対象経費（金額）　(D) | | 166 | 146 | 149 | |
| 対象経費に対する補助 または交付金の割合　(A)÷(D) | | 78　% | 88　% | 87　% | |

| | |
|---|---|
| 補助・交付金の算出根拠 | 北広島市農業振興奨励事業補助金交付要綱・要領 |

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 509 | 事務事業名 | 農地改良事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4602 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務 □法定受託事務 | 根拠法令等 | 北広島市農業振興奨励事業補助金交付要綱、同要領 |
| 事務事業開始年度 | 平成20年度 | 個別計画等 | - |
| 〃 終了予定年度 | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | | （第 4 章） 活気ある産業のまち |
| | | （第 1 節） 農業の振興 |
| | | （施策 2 ） 農地の利用・保全 |
| 2 対 象 | | 透排水不良農地及び遊休農地の所有者及び耕作者 |
| 3 目的と内容 | | 農家が、転作田を含む透排水不良の農地において作物の品質向上、安定生産を確保するために明渠・暗渠排水整備、暗渠等の排水効果を高めるためにレーザーレベラーを用いたほ場均平を実施する場合に助成を行い、収益性の高い品目の生産面積拡大を図る。<br>また、現在借り手がいない遊休農地の流動化を図るための農地復元を行う場合や、客土、石れき除去を行う場合に助成する。 |
| 4 実施内容（手 段） | 2019年度まで | 農地の所有者及び耕作者に補助金を交付（排水暗渠・明渠整備、客土：補助基準額の5分の1。農地復元：9,000円/10a）<br>H29年度 ・排水暗渠整備 12.5ha(2,951m)2,216千円 ・排水明渠整備 13.8ha(2,951m)148千円<br>・客土 2.5ha 918千円 ・復元助成 0ha 0千円 ・土質改良4.1ha 372千円 計3,654千円<br>H30年度 ・排水暗渠整備 8.5ha(5,780m)1,046千円 ・排水明渠整備 11.7ha(1,630m)78千円<br>・客土 2.0ha 604千円 ・復元助成 0ha 0千円 ・土質改良0ha 0千円 計1,727千円<br>H31年度 ・排水暗渠整備 5.9ha(6,050m) 1,328千円 ・排水明渠整備 1.6ha(2,084m) 25千円<br>・客土 0ha 0千円 ・復元助成 0ha 0千円 ・土質改良0ha 0千円 計1,353千円 |
| | 2020年度 | 農地の所有者及び耕作者に補助金を交付（排水暗渠・明渠整備、客土、土質改良：補助基準額の5分の1。農地復元：9,000円/10a）<br>※排水暗渠整備に関して、補助金算定基準額を見直した。（1,100円/m→1,750円/m）<br>農産物品質向上・生産量安定化のため、暗渠・明渠等排水整備、客土、土質改良、農地復元への助成。<br>暗渠 6,687m、明渠 1,163m、客土 1,735㎥<br>農地復元面積 0a 土質改良（石れき除去 0a、ほ場均平 0a） |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| 暗渠、明渠の排水整備、客土、石れき除去、ほ場均平、農地復元に対する助成 | 暗渠、明渠の排水整備、客土、農地復元に対する助成<br>・暗渠整備5.9ha 1,328千円<br>・明渠整備1.6ha 25千円<br>・客土0ha 0千円<br>・農地復元0ha 0千円<br>・土質改良（ほ場均平・石れき除去）0ha 0千円 | 暗渠、明渠の排水整備、客土、石れき除去、ほ場均平、農地復元に対する助成 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統 合」<br>「休止・廃止」<br>「終 了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 市内の農地において作物の品質向上、安定性及び生産性を高めるためには農地の状態を維持することが必要であり、農業経営の安定化や遊休農地の流動化にもつながることから引き続き支援を実施する。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 1,353 | | 3,000 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 1,353 | | 3,000 | | | | | |
| | | ① 合 計 | 1,353 | | 3,000 | | | | | |
| | 人 件 費 (左側:一般、右側:再任用) | ② 人 数(年間) | 0.10 | 0.00 | 0.10 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ =②×③ | 820 | 0 | 820 | 0 | | | | |
| | 総事業費①+④ | | 2,173 | | 3,820 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指 標 名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①明・暗渠整備面積 | 目標値 | ha | 21 | 21 | | |
| | | 実績値 | | 7.5 | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① 明・暗渠整備率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | [明・暗渠整備実績/目標] | 実績値 | | 35.7 | | | |
| | ② | 目標値 | | | | | |
| | [指標の定義(算式等)] | 実績値 | | | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | [指標の定義(算式等)] | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか?<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか?<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか?<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 土地改良法に基づく基盤整備などの事業は地区としての受益面積要件等があり、大規模な事業なるため、個々の農業者が小規模で実施する基盤整備のためには必要な事業である。事業の実施により耕作地の維持と遊休農地の流動化により生産性の向上が図られている。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか?<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 生産性の高いほ場を安定的に確保するために有効な手段となっている。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 3 | 基盤整備に係る工種等を需要にあったものとすることにより、効果的に耕作地の生産性の向上を図ることができる。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか?<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 農地の生産性を高めていくための事業として、農地整備を積極的に行うために、今後も補助単価を適切なものとしていく必要がある。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり ■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価) | □ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|

別紙2

# 付　　表

## 補助金･交付金 交付先団体等の状況説明書

| 計画事業番号 | 509 |
|---|---|

＜継続用＞

### 【交付先団体等の概要】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 補助金･交付金名 | 農地改良事業補助金 | | |
| 交付先の名称及び代表者名 | 道央農業協同組合<br>恵庭・北広島営農センター　営農センター長　釜田　英司 | 設立年 | 平成13年 |
| 構成員(団体)数 | 各生産組織構成員数　143名（農業生産者数）　（2020年7月末現在） | | |
| 交付先団体等の活動目的 | 農業経営安定化のための情報の共有や各種活動による農業振興等 | | |
| 交付先団体等の活動内容 | 農業技術の向上及び農業振興事業の共同活動 | | |
| 事務局の状況（2019年度） | ■補助団体にある　□市役所にある | | |
| 補助金等の充当状況（2019年度） | □運営費のみに充当　■事業費のみに充当　□運営費・事業費の双方に充当 | | |

### 【交付先団体等の決算･予算の状況】

（単位：千円）

| | 区　　分 | 2018年度（決算） | 2019年度（決算） | 2020年度（予算） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 収　入 | 本市補助･交付金の額（A） | 1,727 | 1,353 | 3,000 | |
| | 関係機関補助金 | 1,727 | 1,353 | 3,000 | 道央農協 |
| | 自己負担 | 4,063 | 4,382 | 6,892 | |
| | その他 | 1,920 | 1,136 | 3,476 | 水田農業推進基金 |
| | | | | | |
| | 繰越金 | | | | |
| | 収　入　合　計　（B） | 9,437 | 8,224 | 16,368 | |
| 支　出 | 明・暗渠排水、客土事業 | 9,437 | 8,224 | 16,368 | |
| | 農地復元 | 0 | 0 | 0 | |
| | 土質改良 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 支　出　合　計　（C） | 9,437 | 8,224 | 16,368 | |
| 繰 越 金 | 収入（B）－ 支出（C） | 0 | 0 | 0 | |
| 全体支出に対する本市 補助･交付金の割合　(A) ÷ (C) | | 18　% | 16　% | 18　% | |
| 補助･交付金の対象経費　(項目) | | 暗渠排水事業費 | 暗渠排水事業費 | 暗渠排水事業費 | |
| 補助･交付金の対象経費（金額）　(D) | | 9,437 | 8,224 | 16,368 | |
| 対象経費に対する補助 または交付金の割合　(A) ÷ (D) | | 18　% | 16　% | 18　% | |

| | |
|---|---|
| 補助・交付金の算出根拠 | 北広島市農業振興奨励事業補助金交付要綱、同要領 |

別紙1

# 令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

| 計画事業番号 | 893 | 事務事業名 | 六次産業化等支援事業 | 担当部署 | 経済部農政課 | 電話 | 4604 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## 【基本情報】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務区分 | ■自治事務 □法定受託事務 | | 根拠法令等 | - | | | |
| 事務事業開始年度 | 平成28年度 | | | | | | |
| 〃 終了予定年度 | | | 個別計画等 | - | | | |
| ソフト・ハード区分 | ソフト事業 | 会計区分 | 一般会計 | 補助単独区分 | 単独 | 新規継続区分 | 継続 |

## 【事業概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1 総合計画体系 | （第 6 章） | にぎわい・活力のあるまち |
| | （第 1 節） | 地方創生の推進 |
| | （施策 4 ） | 新たな事業・価値の創造 |
| 2 対 象 | 農業者等 | |
| 3 目的と内容 | 農産物を原材料とした加工品の製造・販売など、六次産業化や農商工連携といった農産物の付加価値を高め、農業者の所得向上や雇用促進につなげる事業を支援する。 | |
| 4 実施内容（手 段） | 2019年度まで | 市内農業者の経営力の安定と向上を目指し、六次産業化等による経営の多角化を推進するために次のことを実施する。<br>・セミナー等の開催（意識醸成・人材育成）<br>・六次産業化等支援事業（商品開発等事業）補助金の周知、活用により商品開発・販路開拓等の取り組みを促進<br>・他の助成制度やセミナーなどの情報提供<br>・六次産業化商品や地産地消の取組み（主に直売所）について、市ＨＰ等で情報発信する。<br>・農業者と商工業者のマッチング支援<br>・六次産業化商品等について、市主催のイベントをはじめとした各種イベント等で活用する。 |
| | 2020年度 | 前年度実施したものについては、継続して取り組むとともに、令和2年度は石狩農業改良普及センターと連携し、新たな販路開拓や新商品開発・サービス提供等を目標に農業者向けマーケティング戦略研修を行う。（R2～R4までの3か年の段階的な研修を実施、対象農業者7名） |

## 【事業の計画・実績】

| 2019年度 | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|
| 計画 | 実績 | 計画 | 計画 | 計画 |
| ・農業者等へのセミナーの開催<br>・補助事業実施（1件）<br>・商品開発コンサルティング委託 | ・六次産業化セミナーを開催（10月）<br>・六次産業化等推進戦略に基づき六次産業化等の取組を促進した。<br>・六次産業化等支援事業補助金（商品開発等事業）の制度周知した。 | ・農業者等へのセミナーの開催<br>・補助事業実施（1件）<br>・マーケティング戦略研修の実施 | | |

## 【評価結果・評価コメント】

| 総合判定 | | 次期総合計画に向けた具体的な方向性 | 評価区分 |
|---|---|---|---|
| 前年度2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | 「拡大」<br>「現状継続」<br>「要検討」<br>「見直し」<br>「統 合」<br>「休止・廃止」<br>「終 了」 |
| 1次評価 | 現状継続 | 次のことを継続して実施する。<br>・農業者等を対象にセミナー等の実施。<br>・農業者の六次産業化・農商工連携といった経営の多角化に取り組む農業者に対して積極的な支援を行うため、六次産業化支援事業補助金（商品開発等事業）の制度周知を行うとともに、他の助成制度や関連情報の提供に努める。<br>・市内の六次産業化商品等のPRやこれらの販路開拓を支援。 | |
| 2次評価 | 現状継続 | 現状継続とする。 | |

## 【事業費の推移】

（単位：千円）

| | | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決算額、当初予算額又は推進計画額 | | | 61 | | 1,083 | | | | | |
| 事業額 | 直接事業費 | 国支出金 | | | | | | | | |
| | | 道支出金 | | | | | | | | |
| | | 地方債 | | | | | | | | |
| | | その他特財 | | | | | | | | |
| | | 一般財源 | 61 | | 1,083 | | | | | |
| | | ① 合　計 | 61 | | 1,083 | | | | | |
| | 人件費（左側：一般、右側：再任用） | ② 人　数（年間） | 0.20 | 0.00 | 0.20 | 0.00 | | | | |
| | | ③ 1人当り年間平均人件費 | 8,200 | 4,500 | 8,200 | 4,500 | | | | |
| | | ④ ＝②×③ | 1,640 | 0 | 1,640 | 0 | | | | |
| | 総事業費①＋④ | | 1,701 | | 2,723 | | | | | |

## 【評価指標】

| | 指　標　名 | | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 | ①農業者等へのセミナー等の開催回数 | 目標値 | 回 | 1 | 1 | | |
| | | 実績値 | | 1 | | | |
| | ②補助事業の実施件数 | 目標値 | 件 | 3 | 3 | | |
| | | 実績値 | | 0 | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | ④ | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| 成果指標 | ① セミナーの開催回数達成率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | セミナー開催回数実績値／目標値 | 実績値 | | 100 | | | |
| | ② 補助事業実施件数達成率 | 目標値 | % | 100 | 100 | | |
| | 補助件数実績値／目標値 | 実績値 | | 0 | | | |
| | ③ | 目標値 | | | | | |
| | 【指標の定義（算式等）】 | 実績値 | | | | | |

## 【評価項目】

| | チェック項目 | 評点 | コメント |
|---|---|---|---|
| 妥当性 | ・税金を使って行うこと（補助すること）が妥当ですか？<br>・上位の施策への貢献度は大きいですか？<br>・特定の団体の利益に偏っていませんか？<br>【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 農業者の経営力の安定と向上を目指し、六次産業化等による経営の多角化を推進するためには、農業者の意識醸成を図ることが重要である。また、市の魅力向上につながる商品開発等の取組には金銭的な負担が伴うものである。よって、研修・セミナーの開催や補助金の交付等を中心とした本事業による六次産業化等の促進支援は妥当である。 |
| 達成度 | ・計画どおりに成果があがっていますか？<br>【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない<br>【コメント欄】理由を記入 | 3 | 研修やセミナーでは農業者の意識醸成が図られ、令和元年度は六次産業化等支援事業補助金（商品開発）の申請が0件だったものの、令和2年度は3件の申請があった。 |
| 成果向上 | ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入 | 2 | 継続的なセミナー等の開催は、農業者のさらなる意識醸成につながる。また、農業者等が商品開発、販路拡大等に取り組む際に、補助金が活用されることでさらに成果が向上し、市の特産品数の増加にも貢献する。 |
| 経済性 | ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？<br>【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい<br>【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入 | 3 | 農業者等の意識醸成には中長期的な働きかけが必要である。また、六次産業化等に取り組む農業者等へ補助金の活用を促し、市の魅力につながる特産品の開発を促進する。 |

| 【法律で実施が義務付けられている事務事業か】 | □ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし |
|---|---|

| 【民間活力の活用性評価】（事業担当部局が評価） | ■ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。<br>□ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。 |
|---|---|